

第8回講演会・講習会

今年度も夏休み中の8月17日（木）・18日（金）の2日間、大阪府立生野聾学校とアウイーナ大阪を会場に、第8回講演会・講習会を開催しました。今年度は愛媛大学立入哉先生の講演会及び、各講座に250名あまりの方々の参加がありました。

今回の講座は、「教育オーディオロジー」をベースにしつつも、関連領域にも積極的に踏み込んで聴覚障害教育の今日的課題となっている内容を取り上げ、2日目を1つのテーマで1日かけて学び語れる講座の形にして実施しました。

参加していただいた先生方の感想をもとに、今回の講演会・講習会を振り返りたいと思います。



～ 講演会 ～

『アメリカでの聴覚障害教育』

講師：愛媛大学 助教授 立入 哉 先生

8月17日（木）午前の講演会では、講師に愛媛大学助教授の立入哉先生をお招きして、『アメリカでの聴覚障害教育』とのテーマで、ご講演をいただきました。

聴覚障害教育という「経験＋専門性」の特に必要な教育分野においては、立入先生に紹介していただいたコロラド州の『CHIP』という制度は、聴覚障害の子どもを持つ保護者に様々な情報を確実に伝えることができ、安心と教育の保障をもたらすシステムであると思われました。

新生児聴覚スクリーニングで「我が子の聴覚に障害がある」ということを告げられて、不安な保護者にとっては、これからこういった選択肢があり、親として何を選択して進めていくべきなのか、またコロラド州全体に公平に機会が与えられるのは、よく考えられた制度だと思いました。

実際に私たち教員としての仕事内容は、子どもたちに関わる核心部分の仕事よりも、周辺の雑務に追われ、時間を無駄に浪費しがちです。そのマニュアルがうまくまとめられている『CHIP Welcome Kit』はアドバイスすべき教師にとっても大変有効だと思われました。



～ 講習会 ～

今回の講習会は、2日目を1つのテーマで1日じっくり研修できる形式にし、2日間で14講座を設けました。1日目の午後には、講演会講師の立入哉先生に引き続き「コロラド州の教育オーディオロジー」の講座をご担当いただきました。また、耳鼻科の先生による「聴覚生理」の講座では、京都第一赤十字病院の立本圭吾先生にわかりやすくお話していただきました。教育オーディオロジーの入門・基礎的な「教育オーディオロジーの基礎」「教育オーディオロジーの基礎知識」「補聴器の基礎」「補聴器の保守管理」「音響学の基礎」などの講座に加え、今年度は「現代のコミュニケーション論争に思うこと」「学ぼう、語ろう言語指導」「発達検査」など新たな講座も設けました。「人工内耳について」は、今年度も愛知淑徳大学の井脇貴子先生に講演していただきました。「発音指導」では、基本的な事項から具体的な指導法までお話いただいたり、「難聴学級の取り組み」や「支援教育のすすめ方」などは、各校の実践を報告し、参加者も交えて意見交換をしました。



講習会・講習会アンケートから

～ 講演会について～

- ・ コロラド州の様子から日本のろう教育の良さを再認識できたのはよかった。
- ・ 20dB以上の子どもが難聴の対応を学校が扱えるようにしている事や親の会が福祉サービスを行っている等いろいろな支援があると知り、驚きました。
- ・ 両親へのサポートをする人々にも共有するノウハウがあり、州としての体制があるのは心強いことだと思いました。
- ・ FMの話がおもしろかったです。
- ・ 日本では、聴覚スクリーニング後の親に対するケアやその後の 聾教育への引き継ぎが不十分であると思うので、いろんな国や 地域の体制を参考にして、より良いシステムを作り上げる必要 があると感じた。
- ・ 今後の自分の実践に役立てる内容の話聞いてよかったです。



～ 講習会について～

「聴覚生理」

- ・ 耳の中のいろいろなシステムや耳からの情報についてよくわかった。
- ・ 貴重な中耳内の手術の映像を見ることができ、勉強になった。
- ・ 中耳炎等についてもよくわかった。保護者へ説明する際に参考にしたい。



「教育オーディオロジーの基礎」

- ・ 検査を受ける側の体験もでき、検査を受ける生徒の気持ちや立場も考えさせられる貴重な体験ができた。
- ・ 補聴器についての基本的な事が理解できていなかったのに、じっくり触って研修できたのはよかった。



「教育オーディオロジーの基礎知識」

- ・ 聾学校の教員をしていく上で改めて押さえておくべきことをまとめてもらっていて、大変ためになった。
- ・ 今まで何気なく見ていたオーディオグラム（検査結果）をもう少し深く見て、子どもの特性を知れるようになった。
- ・ 聴覚障害児やその保護者と関わる上で、きっちり身につけておきたい知識であり、今後の実践に活かしていきたい。子どもの変化に気づき、聴覚を最大限いかせられる生活づくりに



努

めたい。

- ・ 補聴器等、年々めまぐるしく進化していることを痛感した。



「補聴器の基礎」

- ・ 概要がよくわかった。
- ・ はじめて知ったこともたくさんあり、勉強になった。
- ・ 講義と実習のスタイルで実際に補聴器等に触れて良かった。

「補聴器の保守・管理」

- ・ 実際に補聴器に触ることができよかった。



「音響学の基礎」

- ・ 難しい内容を分かり易く説明していただきよかった。
- ・ 時間が足りなくて説明を聞けなかったところが残念だった。



「支援教育のすすめ方」

- ・ 少人数でじっくり話げできた。
- ・ 地域支援のテーマは、ろう教育の中のほとんどの分野をカバーする幅広く奥深いテーマであるので、1日通して話をしても尽きることがないと感じた。
- ・ 今後もテーマを発展させ掘り下げて行ってほしい。
- ・ 内容の交流を深めていきたい。



「発音指導」

- ・ 発音指導の大切さ、指導上の基本事項、具体的な指導方法等、1日通して講習いただき、また資料も詳しく実り多かった。
- ・ 時間が短く感じるほど、一生懸命聞き入っていた。
- ・ ろう学校における大きなテーマの1つなので、1日まとめて聞けてよかった。



「難聴学級の取り組み」

- ・ 子どもの実態に合わせてスタートすることの大切さとともに教師が他の学校や校種とのネットワークを広げていくことで子どもの世界を広げていけるということがストンとおちた。
- ・ 教科指導上の配慮点など具体的に教えていただき参考になった。
- ・ 教師の力量が最重要課題で、専門性の中味の広さ、深さを要求されているのがよくわかった。その意味でも聾学校の果たす役割は大きいと改めて認識した。
- ・ 聴覚障害者の方の著書も活用していきたい。
- ・ もう少し参加者の悩みを話す時間が多くあればありがたい。



「人工内耳の基礎」

- ・ 基礎からリハビリ、情報交換等とても充実していた。
- ・ 実際に実物に触れることもでき、とても分かり易かった。
- ・ 時間がなく、全部きけなかったのが残念だった。
- ・ 前年も参加したが、また新しい知見が得られた。マッピングのしくみが意味することは、何度もきいて少しずつ分かってきた。
- ・ 保護者や医療機関との連携の話など頷けることも多く、1日人工内耳づけでしたが勉強になった。



「発達検査」

- ・ 評価の方法等を聴けて良かった。
- ・ 子どもの検査結果、日常の姿などトータルのみで、課題設定や手立てを広い視野で検討することの大切さを感じた。
- ・ もう少し時間をかけてゆっくり検査そのものをしてほしい。



「現代のコミュニケーション論争」

- ・ 脇中先生の経験に基づいた内容は、とても興味深くきくことができた。
- ・ 中学の難聴学級で参考になることがたくさんあった。
- ・ 高校段階までの思考、手話の効果と限界、一部を見て解釈を間違える例のあたり具体的でとてもよかった。また、ことばにこだわりつつ意味の理解を深めることは、卒業し社会に出て恥ずかしい思いをさせないために必要ではないかと感じた。
- ・ 実践の部分もっと聞きたい。



「学ぼう・語ろう言語指導」

- ・ 作文指導の報告は、子どもの課題がよく分かり、幼・乳幼段階でどのような力をつけるべきか考えるために良い機会になった。
- ・ いろんな意見が聞けてよかった。日本語学校の先生もいて、具体的な話がよかった。
- ・ 子どもの会話の質を高めるにはどのようにしていけばよいか、保護者にわかりやすくアドバイスする方法も考える必要がある。



その他、たくさんの感想をいただきました！

～来年度への希望～

- ・ 特別支援教育の今後の進み方、課題について
- ・ 手話による日本語教育の成果と課題について（継続）
- ・ 発音指導での具体的な技法について（継続）
- ・ 学校で教科学習を通して身につける課題について
思春期（小高～中学）以降のアイデンティティーの確立に向けて
- ・ 絵日記指導について
- ・ 聴覚学習の実践について
- ・ 早期支援の各校の取り組みについて
- ・ 幼稚園や小学部での保育や授業の実践について
- ・ 発達に遅れのある子どもについての実践について
- ・ 人工内耳の基礎知識や人工内耳のことばの発達や自立の中で起こった事例、援助の参考例等
- ・ 軽度の難聴児の指導の目標とポイント
- ・ 具体的な指導方法や新しい取り組みの紹介を入れてほしい
- ・ 参加者の悩みや実践例を交流する内容
- ・ 欧米、アジアの聾学校教育の実態や特色



研修スタイルについては、ほとんどの方が「1つのテーマでじっくり研修できてよかった。」と回答してくださいました。

今年度も実習や具体的な実践例をもとにした内容・取り組みの紹介、情報交換する内容等を希望するご意見が多かったように思います。

いつもたくさんのご意見をいただき、感謝しております。

今後の講演会・講習会をよりよい会としていくために、皆様のご意見を参考にさせていただき検討していきたいと思っております。

アンケートへのご協力、ありがとうございました！

今後の活動計画

平成18年11月3日（金） 秋の講演会

テーマ「手話の活用と日本語の習得」

講師：小田侯朗 先生（独立行政法人 国立特殊教育総合研究所）

時間：13:30～16:30

会場：味覚糖UHA館（大阪市中央区神崎町4-12）

平成18年1月13日（土） 冬の学習会

テーマ「乳幼児の聴覚評価」

講師：澤田道夫 先生（前広島難聴幼児通園施設 山彦園園長）

時間：10:00～15:30

会場：県民交流プラザ 和歌山ピック愛（和歌山市手平2丁目1番2号）

2月

3月末

機関紙第19号発行(秋・冬の学習会の報告)

集録第8号発行



各地の研究会案内

詳細は本会ホームページをご覧ください



大阪聴覚障害教育研究会 第32回研究会

日時：平成18年10月28日(土)

会場：大阪市立豊学校会議室

日程：14:00受付

14:30～16:30

テーマ：「聴覚障害児教育への
思い～自分の体験をふ
まえて～」

講師：赤木葵さん（関西大学
文学部心理学専修4回生）

参加費：500円

事前申し込みの必要はありません

当日、直接会場へお越し下さい

当日の情報保障：講師自ら手話を
つけ話していただきます

問い合わせ先：

大阪聴覚障害教育研究会事務局
（大阪市立泉尾北小学校

難聴学級 足立 貢）

TEL:06-6551-0028

FAX:06-6493-6450

ホームページ：

<http://www.geocities.jp/>

[chosyoken/](http://www.geocities.jp/chosyoken/)

平成18年度第3回 京都聴覚障害教育研究会

共催：京都言語障害教育研究会

日時：平成18年12月2日（土）

日程：受付9:30～

午前講演：

「障害者自立支援法と

ことばのメカニズム」京都府立豊学校聴能言語室

障害児・者福祉」講師：静岡県立大学

細矢義伸

講師：京都聴覚言語障害センター

寺尾 康 先生

TEL:075-461-8137

所長 柴田 浩志 先生 詳細についてはお問い合わせ下

FAX:075-461-8122

午後講演：

さい

「言い間違いから探る

問い合わせ先：

近畿教育オーディオロジー

研究協議会事務局

〒639-1122

奈良県大和郡山市丹後庄町456

奈良県立ろう学校内

事務局長 中井 弘征

TEL:0743-56-2921

FAX:0743-56-8833

メール:h-nakai@indigo.plala.or.jp